

令和6年度事業計画（案）

学校や企業、地域団体などSDGsの取り組みや環境問題への関心が高まっており、イベント出展やワークショップ、教育機関への出張授業、企業とのコラボレーション等の依頼が増えている。コロナ以降、従来のイベントに加え、新規開催のイベントも増えたため、時期が重なってしまうこともあるので、他団体との情報共有、連携を尚一層図っていく必要がある。

海岸漂着物問題の啓発に関する事業の依頼も増えているが、環境問題をきっかけとして他の課題との接点の気づきや広がり、多世代に向けて継続的に啓発をしていくことが重要である。行政や企業の協力を出来るだけ多く呼び掛けていくこと、助成金の確保や活用、他団体との連携にも努めていく。

身近な川や水辺の健康診断、美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン、スポGOMI大会等は屋外での活動が主となるため、異常気象によるリスクへの対応もより必要となっている。実施時期の調整等を図っていききたい。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断（別紙募集チラシ参照）

（1）実施期間

世界環境デーに合わせ6月1日～9日の原則の実施期間は設けるものの、天候不順などの状況に対応して、10月18日までとし、安全に実施できるよう期間を延長。

（2）参加申し込みは、原則の調査期間に合わせ、5月17日の締め切りを設けるが、実施期間中随時申し込みを受け付ける。

（3）実施検討会を4月17日に開催し、実施体制など詳細について検討・決定。

参加者は例年同様に国・県の関係行政機関、地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々。Web参加も可能とし開催。

（4）調査補助指導者の派遣

新規参加者や学校などで参加する場合に、要望があれば、地域部会や会員専門機関に協力をいただき、事前講習や現地調査補助を積極的に行う。

（5）水生生物調査

主催の山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては、「身近な川や水辺の健康診断」との同時申込可能として募集する。

（6）透視度計

例年同様、各地域の貸出担当者に協力をいただき、参加者からの申し込みにより貸し出す。

（7）CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、調査結果50地点分を提出予定。

（8）調査結果集計は引き続き、公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て「水辺診断書」としてレーダーチャートを作成する。

2 スポGOMI大会の開催（別紙1参照）

（山形県循環型社会推進課委託事業含む）

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催する。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアー等、環境教育プログラムを提案する。

(企業や団体との連携)

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進する。

海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、トヨタソーシャルフェス、山形大学生生活協同組合学生会など

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発 (別紙2、3参照)

- (1) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座 (山形県循環型社会推進課委託事業含む)
「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施する。
- (2) ゴミ回収体験やパネル、ゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進
環境教育のためのゴミ標本や資材、オンラインやYouTubeを活用した啓発、啓発資材の貸出し、説明を行う。
学校、企業イベント、マルシェ、研修会等でのワークショップ、回収体験等の開催。
スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案する。
- (3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携
連携協力事業例 スポGOMI甲子園、スポGOMIワールドカップ、河川や町中での不法投棄防止に向けた啓発事業、山形の海洋ごみを考える日、などが想定される。その他、SNSや動画を活用した啓発。
- (4) ホームページ「最上川環境マップ」の整備

4 報告書「笑顔を書す山形の川」

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告する。
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、実施団体や学校等へ配布。

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン (別紙募集チラシ参照)

- (1) 実施期間 通年募集とする。
- (2) 実施経費の支援 1グループ当たり一律3千円の支援を想定。
- (3) イベントとのコラボレーション
スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進する。
- (4) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施
国土交通省山形河川国道事務所からの委託(オープンカウンター方式見積合わせに応募予定)で長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市で実施。
- (5) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」にデータを提供する。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進 (別紙3参照)

- (1) 学校、企業イベント、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、パネルや見本の展示、体験やワークショップ、講座、研修会を行うなど実施内容を検討する。海洋へのゴミの流出削減を呼びかける。
- (2) 過年度作成した動画や啓発資材の活用
- (3) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
 - ① 山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に参加し提案等を行っていく。
 - ② 町中調査に基づいた不法投棄防止のための啓発事業の展開。
(海と日本プロジェクト 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス受託事業)
(予定)
- (4) 川ごみ団体、全国川ごみネットワークとの連携
全国川ごみサミット、美ロード348プロジェクト、最上川229ネットワーク

3 広報啓発

- (1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策や過去に作成した湧水利用の動画等を中心として、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組む。
- (2) 令和3年度から引き続き映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局として活動する。上映に併せ、海岸漂着物標本、啓発資料展示、説明等を行う。
- (3) 会員(メールアドレス登録者のみ)のメールマガジンよりも、幅広く広報効果のあるSNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討する。SNSの中でもターゲットとしたい層等によって使い分けが必要なので、情報を集めながら効果的な方法を取り入れていく。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医等を派遣する。
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等、桜をテーマとした緑化推進のための環境教育ワークショップを多世代に向けて地域部会と連携して開催する。
緑の環境づくり推進事業(やまがた森林と緑の推進機構)県内3か所で実施予定
・9/22 環境フェアつるおか 11/4 ケヤキの森/由良地区(調整中) 11/10 有屋地区
他検討中
- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介する「桜の写真と灯りの展示会」
巡回展示では、桜守の活動紹介もを行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信していく。
(3月から5月)

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。
- (2) 「桜の写真と灯りの展示会」(別添チラシ参照)
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和6年3月中旬から市町村の協力を得て巡回。
桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行う。(前述)
(令和5年度事業報告別添チラシ参照)

3 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居（令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞）最上川にまつわる紙芝居（令和4年度山形県視聴覚教材コンクール入賞）、令和5年度に最上川229ネットワークとの連携により製作した紙芝居の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。
- (2) 地域団体からの情報を集めながら、紙芝居製作のための聞き取りや取材、関連イベント等への参加等。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
- (3) 環境講座等の開催（最上川229ネットワーク（白鷹町）と連携）

◇村山地域部会

- (1) 「スポGOMI大会」への協力
- (2) 「やまがた環境展」出展の際のスタッフ協力
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
- (3) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、現地団体との連携
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」現地団体との連携
- (4) 内川学関連事業の開催

全 体

1 総会・運営委員会・部会・役員会

通常総会（6月28日）

運営委員会（5月30日、11月、3月）

清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（11月、3月）

役員会（運営委員会に先立ち開催、必要に応じ随時開催）

2 会員拡大の取組み

(1) 個人会員の募集

引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て窓口への入会案内設置などによる会員募集キャンペーンを実施する。

キャンペーン実施内容を見直し、改めて金融機関、県、市町村へ依頼する。

(2) 法人会員の募集等

① 企業経営者に対する入会勧誘及び寄付募集等について、講演等の機会を活用して当フォーラムの活動を紹介するなど、役員が先頭に立って注力していく。その際、商工団体や法人団体等から助言や協力を得るものとする。

② 引き続き、法人及び団体の会員に対し、会費増額（一口3千円を1万円以上に増額）の要請を行っていく。

(3) 効果的な勧誘PR方法等の検討

企業にとって納得感が得られるようなメリットの付与や顕彰、PR方法等を検討する。

3 運営基盤の強化

(1) 役員が中心となり、会員拡大や支援（財源）獲得並びに収支改善を図っていく。R5年度より設置した役員会で、企業会員の増加等について検討する。企業や行政への理解、協力、連携を仰ぐため積極的に出向き、次年度以降の継続に向けて働きかけていく。

(2) 専門部会のあり方については、合同開催が続いていることや参加者の減少など、現状に対する課題認識は持ちつつ、改善方策を検討していく。

(3) 地域部会の再構築については、部会長個人の頑張りに依存している現状や受け皿となり得る活動団体が存在しない地域もある事などを踏まえ、人材及び財源の両面から拡充に向け取り組むとともに、地域の実情に合わせた柔軟な対応を検討していく。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 山形県委託事業
事業名：令和6年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務
・スポ GOMI 大会開催、海岸漂着物問題普及啓発出張講座の実施
- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）※応募
・最上川上流7か所での清掃活動
- (3) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
・桜の維持管理研修会、環境教育ワークショップ等の開催
- (5) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
・6月24日 総会出席予定
- (6) 全国川ごみネットワークとの連携
・12月20日 川ごみサミット開催予定
- (7) 「海と日本プロジェクト」との連携
・海と日本プロジェクト in 山形
海岸漂着物問題啓発事業(さくらんぼクロスウォーク等)、スポGOMI 甲子園、スポGOMI ワールドカップなどの実施
- (8) 国、県、市町村や企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
・普及啓発活動の推進等
- (9) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
・事務局長設置費
- (10) 基金等への応募や寄付などの獲得に努め、その内容に応じた事業を展開する。
・水環境保全助成事業（全国浄化槽団体連合会）※申請中
身近な川や水辺の健康診断の実施

※敬称略